

新高岡駅周辺地区

(二期)

(富山県高岡市)

- 計 画 期 間 平成 25 年度～平成 29 年度
- 面 積 752 h a
- 交付対象事業費 3818.2 百万円
- 市人口 166,641 人

ポイント 地域資源や交流拠点を活かした新駅周辺の賑わいづくりや、交通利便性の強化による交流人口の拡大

地区概要 新高岡駅周辺の道路整備や公園整備等、都市基盤整備や、在来線の利便性改善を進めていくことで県西部地域並びに飛騨・越中・能登地域の玄関口としての交流拠点形成を目指す。

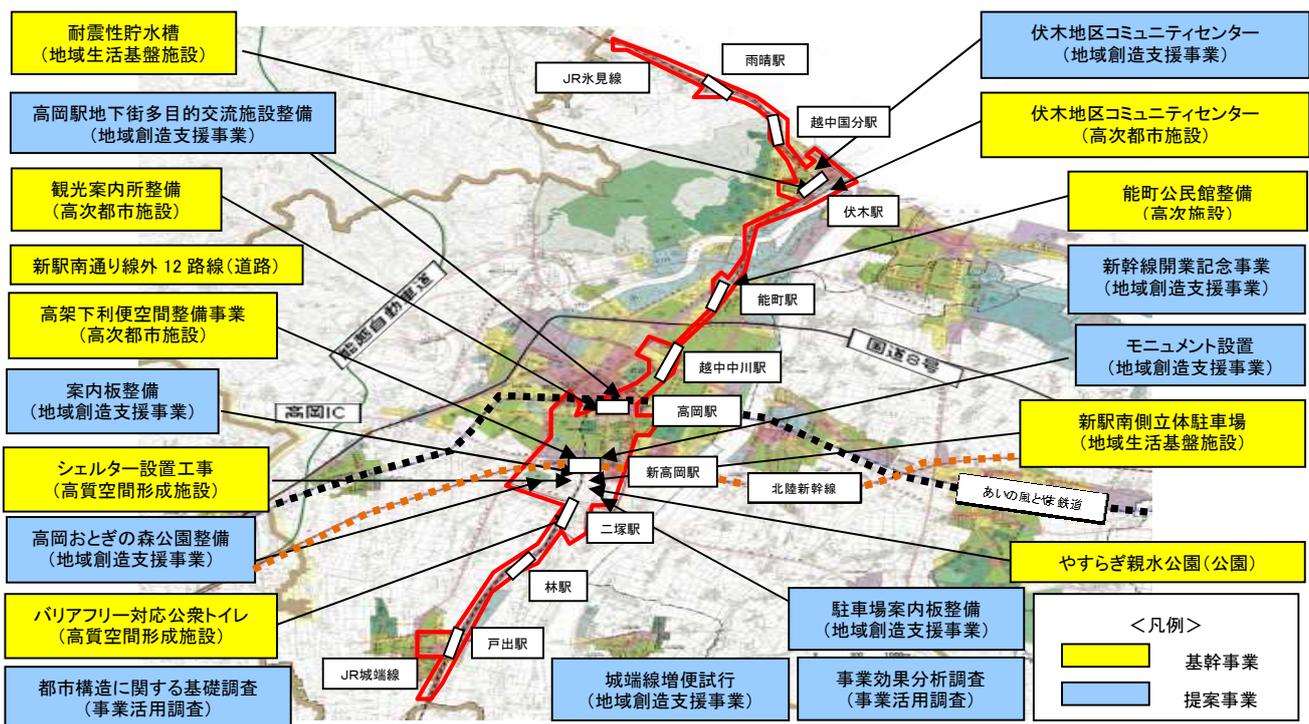
目 標 新たな時代に向けた県西部地域並びに飛騨・能登地域のふれあいと交流のまちづくり

指 標 利便性の高い魅力ある施設整備事業による新駅周辺の賑わいづくりや、公共交通の活性化による交通利便性の強化を目標とした。

項 目	従前値	(年)	→	評価値	(年)
新駅周辺主要施設の年間利用者数	1,260,000 人	H22	→	1,170,000 人	H29
城端線・氷見線の1日の平均利用者数	10,429 人	H22	→	11,533 人	H29

事業内容 基幹事業 (3,069.4 百万円) → 道路 (延長 6,564m)、公園 (6,045 m²)、新駅南側立体駐車場 (約 461 台)、耐震性貯水槽 (3 箇所)、シェルター設置事業、高架下利便空間整備事業 (約 688 m²)、伏木地区コミュニティセンター (約 1696 m²) 等

提案事業 (748.8 百万円) → 高岡駅地下街多目的交流施設整備事業 (約 267 m²)、新幹線開業記念事業、モニュメント設置事業 (3 箇所)、案内板整備事業、高岡おとぎの森公園整備事業 (約 11.2ha)、城端線増便試行、事業効果分析調査事業 等



地区の現況と課題

地区の現状

本地区は、JR高岡駅と平成27年3月14日に開業した北陸新幹線新高岡駅を中心とし、JR城端線・氷見線の沿線からなる地区である。また、北陸自動車道小杉I.C.や能越自動車道高岡I.C.を結ぶ地域高規格道路高岡環状線が本地区を東西に横断している。

地区の課題

本地区は、北陸新幹線開業や東海北陸自動車道の全線開通、能越自動車道の延伸を活かした広域交通拠点として、既存の交流拠点施設の有効活用や、交流人口の拡大、地域資源を活用したまちなかの回遊性の創出が求められている。このため、新駅周辺の道路整備や公園整備、都市基盤整備を進めていくことで県西部地域並びに飛騨・越中・能登地域の玄関口としての交流拠点形成を目指す。



▲新高岡駅



▲新高岡駅南側立体駐車場



▲新高岡駅シェルター

提案事業の特徴

新幹線開業記念事業

イベント等を実施することによる新駅周辺の賑わいの創出。

モニュメント設置事業

新駅利用者のもてなし空間、憩いの場として整備。

高岡おとぎの森公園整備事業

地区内の主要な交流施設として整備。

城端線増便試行

城端線の利便性の向上のため、増便試行を行う。

事業効果分析調査事業

今後必要となる事業や新たなまちづくりの課題、目標を分析。

計画策定プロセス

北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺まちづくり計画検討委員会

学識経験者、鉄道・公共交通関係者、経済団体、市民団体、関係自治体で構成する当委員会において、新高岡駅周辺のまちづくりについて、まちづくりの基本理念、周辺の土地利用、道路・施設の配置等を検討し、平成19年4月に「北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺まちづくり計画」を策定した。

新高岡駅（仮称）周辺地区都市再生整備計画事後評価委員会

平成20年度～平成24年度に策定した新高岡駅周辺地区都市再生整備計画（第1期）の事業の事後評価を行い、今後必要とされる事業や新たなまちづくりの課題、目標などの整理を行った。



▲検討委員会の開催風景